

警 察 署 協 議 会 議 事 録

協議会名	令和6年第1回宮城県亙理警察署協議会
開催日時	令和6年2月29日（木）午後1時58分から午後3時10分まで
開催場所	宮城県亙理警察署 会議室
出席者等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 協議会委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席委員～渡邊隆弘会長、岩佐勝副会長、佐藤徳美委員 三戸部貞雄委員、大友秀孝委員</li> <li>・ 欠席委員～なし</li> </ul> </li> <li>2 宮城県公安委員会委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席委員～山口哲男委員</li> </ul> </li> <li>3 警察署員 署長、次長兼警備課長、会計課長、警務課長、地域課長兼生活安全課長 刑事課長、交通課長、警備課課長代理</li> <li>4 宮城県公安委員会補佐室 公安委員会補佐室長、議会連絡係長</li> </ol>
議事概要	別紙のとおり
備 考	

## 1 報告事項等

### (1) 管内の治安情勢等について（署長）

署長から、令和5年中における刑法犯認知件数、特殊詐欺被害及び交通事故等の管内の治安情勢について説明がなされた。

委員： 特殊詐欺の被害額が増えており、被害者は、高齢者ばかりでなく、社会経験の豊富な方もだまされていると聞くが、被害に遭わないための対策があればお聞きしたい。

地域課長： 金融商品詐欺の手口による被害が多くなっている。

具体的には、インターネット上のSNSを通じ、投資名目でお金を振り込んでだまされるケースが多く、被害金額も多額になっている。

被害防止対策としては、SNS上での勧誘に応じないことなどが挙げられる。

署長： 振り込む前に相手を確認したり、警察に相談するようしていただきたい。

委員： 特殊詐欺被害の手口は、去年と今年で変化しているが、亘理町内における傾向はあるのか。

署長： 特殊詐欺被害の手口は、亘理町内に限らず、県内全域で同じような傾向となっている。

犯人グループは、手口を変えながらだます傾向があるため、住民に対し、被害手口を知ってもらうことが重要と考えている。

### (2) 亘理警察署速度取締り指針について（交通課長）

交通課長から、令和6年度上半期における亘理警察署速度取締り指針について説明がなされた。

## 2 協議事項（提言・意見・要望等）

各委員から、次の提言等がなされた。

### (1) 犯罪抑止につながる警戒強化について

委員： 防災、防犯及び交通事故防止の必要性を感じている。

そのための学校、企業及び高齢者団体等を対象とする防犯教室や研修会の開催、交通安全週間や地域安全運動を通じた活動は、住民の防犯や交通に対する意識を高めることに大切な活動であることに疑いの余地はない。

さらに、重要なのは、普段の警ら活動であり、パトカーの姿を見せることにより、防犯や交通安全の意識向上と犯罪の抑止につながり、地域社会の安全・安心に近づくものと思う。

そのため、できる限りパトロールの時間を作っていただき

たい。

地域課長： 警察では、犯罪の検挙と予防の両輪にて地域における安全と安心の確保に努めている。

パトカー等による常時赤色灯による街頭活動は、県民に対して警察の存在感を示すと同時に、大きな安心感を与えるものであり、防犯意識の向上と犯罪抑止につながるものと捉えている。

今後も警戒時間を確保した上で、警察活動を推進し、安全安心な地域社会の実現を図ってまいりたい。

(2) 災害対策等について

委員： 本年1月1日、令和6年能登半島地震が発生しており、改めて災害対応の見直しが必要と思う。

貴署における災害対策や署員の安全対策はいかがか。

警備課課長代理： 東日本大震災の反省教訓を踏まえ、災害警備訓練及び警察官自身の危険を回避するための教養等を行っている。

今後も、定期的に教養や訓練を行い、発災時における署員の安全確保を図りつつ、災害警備活動を展開してまいりたい。

(3) 再犯防止対策について

委員： 検挙件数が減少傾向であるのに対し、再犯率は約50パーセントという現状である。

警察における再犯防止対策を教えてください。

地域課長： 警察では、令和5年3月17日、政府において閣議決定された「第二次再犯防止推進計画」に基づき、様々な対策を推進している。

ストーカーの加害者や薬物事件の被疑者に対しては、カウンセリングや医療機関等の受診を勧奨したり、非行少年に対しては、学校と連携を図り、社会奉仕体験活動への参加機会を確保するなどしている。

(4) 薬物事犯の発生状況について

委員： 亘理警察署管内において薬物事犯の発生はあるか。

刑事課長： 事件の性質上、宮城県内の状況を説明しますと、令和5年中における宮城県警の薬物事件の検挙は、153件である。

また、薬物の種類では、覚醒剤事犯が最も検挙件数が多い状況である。